

第 10 回	村のメープルを活かさナイト	
日時	令和元年 5 月 18 日 (土) 17:30~19:30	
会場	ふるさと回帰支援センター	
ゲスト	原野 知有紀 (占冠村役場農林振興室)	
ゲストのお話		<p>和歌山県出身。東京で就職していたが、偶然占冠村の地域おこし協力隊募集を目にした。もともと農作業ヘルパーを経験するほど北海道が大好きで、2015年11月、占冠村に移住した。占冠村は人口1,200人、気温はマイナス30℃になることもあり、面積の94%が森林である。村木であるカエデを活かし、樹液を煮詰める燃料として間伐材の薪も豊富にあることから、メープルシロップを村の新たな特産品にと商品化に取り組んできた。地域おこし協力隊を卒業してからも、村の嘱託職員として事業に関わっている。カナダ産メープルシロップの原料は糖度3%のサトウカエデだが、占冠産メープルシロップの原料は糖度2%のイタヤカエデ。1リットルのメープルシロップをつくるのには60リットルの樹液が必要で、春先にとれた樹液を新鮮なうちに時間をかけて煮詰める。メープルシロップの製造期は林業の閑散期であり、薪の生産者である「占冠村木質バイオマス生産組合」が中心となり、村の林業従事者によって作られているAmazonや百貨店でも取引が開始された。アイスクリームや飲むお酢の製造も始まった。</p> <p>シロップ製造だけでなく、「メープルの森体験ツアー」や「メープル収穫祭」なども行っている。希少な「国産メープルシロップ」のブランディングを通じて村の森の魅力を伝え、村に人を呼び寄せる活動につなげていきたい。</p>
提供した菓子・飲物		 <p>しむかっぴー (占冠村観光協会) トペニワッカ (一社) 占冠村木質バイオマス生産組合 熊笹茶 (宇治園/札幌市)</p>
参加者数	22名	
当日の様子	 	
参加者の感想 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・国産メープルシロップの話、本当に面白かったです！北海道で新しいことに挑戦するのは大変そうだけど、やりがいがあるな—と感じました。 ・地域おこし協力隊としての話を聞き、とても為になりました。 	